

特集

休校に 寄せる思い

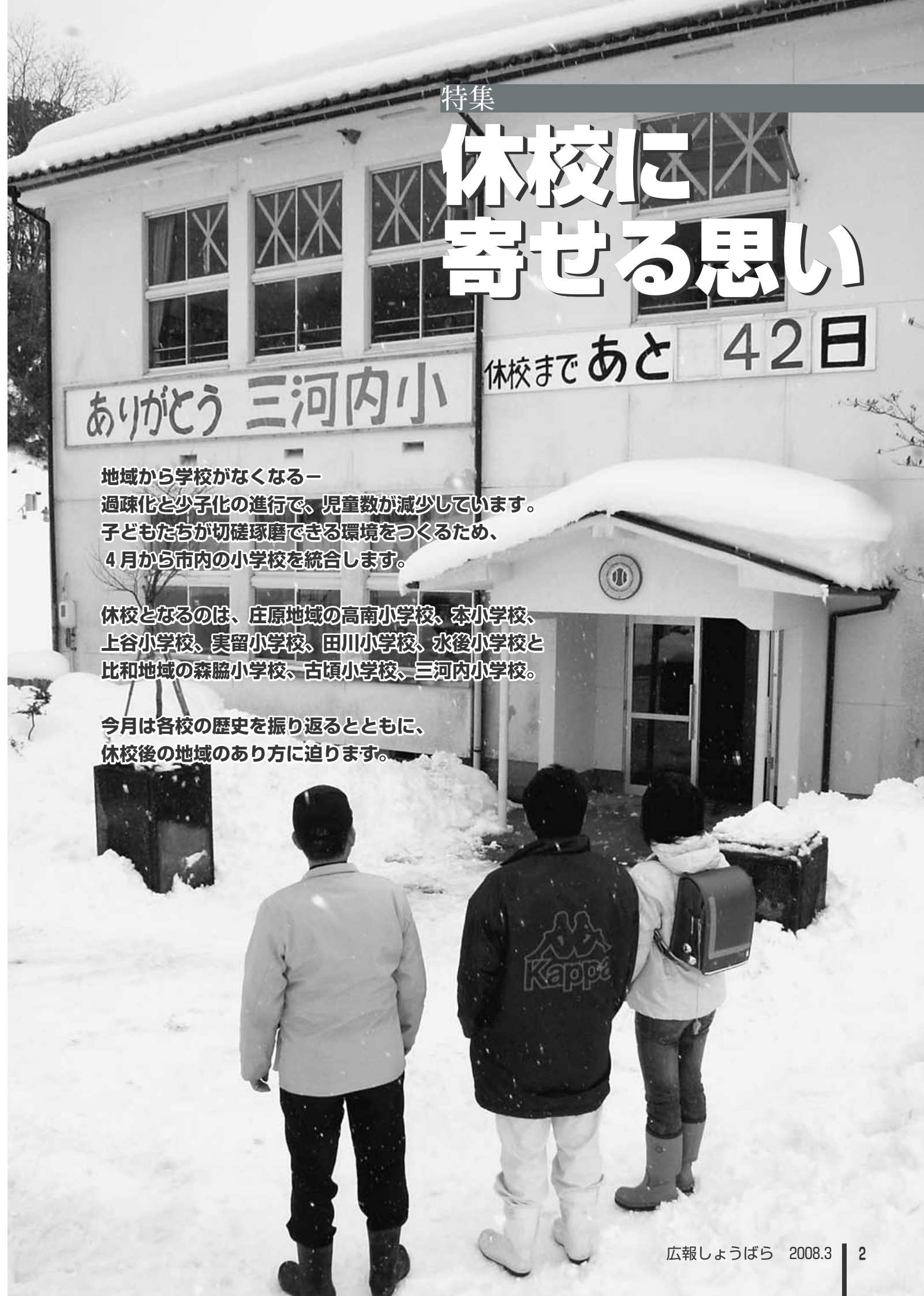
休校まであと 42日

ありがとう 三河内小

地域から学校がなくなる—
過疎化と少子化の進行で、児童数が減少しています。
子どもたちが切磋琢磨できる環境をつくるため、
4月から市内の小学校を統合します。

休校となるのは、庄原地域の高南小学校、本小学校、
上谷小学校、実留小学校、田川小学校、水後小学校と
比和地域の森脇小学校、古頃小学校、三河内小学校。

今月は各校の歴史を振り返るとともに、
休校後の地域のあり方に迫ります。



インタビュー

河野公義 水後小学校校長

新たな学び舎の創造こそ、 さまざまな思いに応える道



竹地谷小学校でも休校を経験

水後小学校はこの3月で、1386名(大正5年3月以降)の卒業生を送り出します。それぞれの学校に130余年の歴史があり、その学校を閉じるというのは大変なことです。私たち教職員にとっても、さまざまな思いや感慨があります。

とりわけ水後小学校は、地域の力を結集し学校組合立として長年運営されてきた歴史があり、保護者や卒業生、地域の皆さんの思いは言葉では表現しがたいものがあると思います。学校としては、その膨大な

「時の流れ」や「学校の歴史」に思いをはせ、これまで支えてくださった保護者や地域の皆さんに、ただただ深く感謝するだけです。子どもたちには、地域の皆さんに支えていただいたという気持ち忘れず、新しい学校の一員としてがんばってほしいと思います。

休校という大きな歴史の節目を迎えますが、そのことを乗り越え、すべての大人が一人一人の児童のたくましい成長を願っています。その願いに応えることが学校の使命であり、新たな学び舎の創造こそ、さまざまな思いに応える道だと思えます。そのため何ができるかを考え、児童が活気あふれる学校生活を送ることができるよう支援していくことが重要だと思います。

引き続き、地域の皆さんにも見守っていただきたいと思います。

奥田順紀 三河内地域振興会事務局長

寂しさを乗り越え、 新たな課題に取り組む



左から娘の陽毬さん、順紀さん、父の順三さん

花が咲けば、何の花か調べる。地域から教材を見つけ出し、勉強をしてきた思い出があります。

子どもは「フェスティバル」、親父は「戦時中に校庭でいもを栽培したこと」など、三世代それぞれに学校の思い出があり、休校を聞いたときは、本当に寂しい思いをしました。しかし、子どもが少ないのは、わたしたち若い世代の責任でもあり、地域社会全体の問題でもあります。時代の過渡期として、現実を受け入れなければいけないと思いました。学校がなくなっても、わたしたちが学んだ校舎は残ります。ここを巣立っていった卒業生には、三河内に家がない人もおられ、その人たちにあって、ふるさとに帰ってくる場所が学校です。校舎を大切に残し、活用していくのは、地域に残っている者の使命です。いつまでも、寂しい思いを引きずるのではなく、気持ち切り替えて、跡地の活用や地域づくりをどうするのか、新たな課題に対して前向きに保護者や地域で話し合いをしていきたいと思っています。

三河内小学校はわたしたち親子三世代が通った学校です。この学校は、学校の教職員だけが先生ではなく、地域の人や自然も先生で、地域全体が学校でした。鳥のさえずりを聞けば、何の鳥か調べ、

実留小学校



休校式 3月23日(日) 10時30分～11時
記念行事 11時30分～14時30分

●学校沿革(抜粋)

- 明治8年 実留西学校を創立
- 11年 実留東学校(円福寺)を設置
- 14年 実留東・西学校を合併し對城小学校と改称
- 19年 実留小学校教場と改称
- 20年 実留簡易小学校と改称
- 24年 実留尋常小学校と改称
- 昭和16年 国民学校令により敷信第二国民学校と改称
- 22年 敷信村立実留小学校と改称
- 29年 庄原市立実留小学校と改称
- 平成9年 現校舎・屋内運動場を改築

●学校沿革(抜粋)

- 明治8年 創立
- 45年 門田・濁川を統合し田川尋常小学校と改称
- 大正11年 田川農業補修学校を併設
- 15年 田川農業補修学校を田川公民学校と改称
- 昭和2年 田川尋常高等小学校と改称
- 16年 国民学校令により田川国民学校と改称
- 22年 山内北村立田川小学校と改称
- 29年 庄原市立田川小学校と改称
- 平成4年 火災により校舎を半焼、後に仮校舎を建設し移転
- 7年 現校舎が落成

田川小学校



休校式 3月30日(日) 11時～11時30分
記念行事 12時30分～14時30分

●学校沿革(抜粋)

- 明治8年 高茂村：三上信太郎氏隠居宅に高茂学校を開校
- 9年 表水越：松田養氏宅に移転
- 23年 表水越石丸谷：森永良三郎氏宅所有の民家に水越簡易小学校を開校
- 24年 後山中組に後山学校を開校
- 25年 山内西村水越尋常小学校と改称
- 大正5年 火災により校舎を焼失
- 昭和8年 山内西村、八次村学校組合の協議が成立し、組合立水後小学校を開校
- 16年 国民学校令により水後国民学校と改称
- 22年 比婆郡学校組合立水後小学校と改称
- 29年 庄原市三次市学校組合立水後小学校と改称
- 51年 創立100周年記念式典を挙げる
- 平成元年 現校舎が落成
- 17年 学校組合を解散し、庄原市立水後小学校に改称

水後小学校



休校式 3月21日(金) 10時30分～11時20分
記念行事 休校式終了後、タイムカプセル埋設セレモニーを実施

●学校沿革(抜粋)

- 明治8年 第四百番小学として創立(旧古頃村郷蔵使用)
- 10年 古頃学校と改称
- 19年 古頃小学教場と改称
- 20年 古頃簡易科小学と改称
- 24年 古頃尋常小学校と改称
- 昭和16年 国民学校令により古頃国民学校と改称
- 22年 比和町立古頃小学校と改称
- 45年 屋内運動場落成、古頃へき地保育所を併設
- 47年 冬季寄宿舎を開設
- 50年 創立百周年記念行事を挙げる
- 平成3年 冬季寄宿舎廃止
- 14年 現校舎が落成
- 17年 庄原市立古頃小学校に改称

古頃小学校



休校式 3月30日(日) 9時30分～10時
記念行事 10時30分～14時

高南小学校



休校式 3月22日(土) 10時30分～11時
記念行事 11時30分～14時

●学校沿革(抜粋)

- 明治7年 後谷の龍福寺へ弘文舎を創設
- 19年 日進簡易小学校を設立(当時の小用・大久保・永末・宮内・高門の5村で経営)
- 25年 高門は敷信村立高門尋常小学校を設立して分離
日進簡易小学校は永末尋常小学校となり、当時の高村・庄原村の2村経営となる。
- 44年 永末尋常小学校の2村経営が解かれ、「高南尋常小学校」を柳谷の池田清右衛門宅に仮設し開校。
- 45年 現在地に高南尋常小学校校舎が完成
- 昭和16年 国民学校令により高南国民学校に改称
- 22年 高村立高南小学校に改称
- 29年 庄原市立高南小学校と改称
- 59年 現校舎を改築、グラウンドを拡張

●学校沿革(抜粋)

- 明治7年 正清学校として本村明善に創立
- 9年 正清学校を西小学校と改称、東小学校を鋤寄に設立
- 12年 東西校を合併して、公立小学校と改称し鋤寄に開校
- 18年 蘇羅比古簡易小学校と改称
- 29年 本尋常小学校と改称し本村智ノ熊に開校
- 大正2年 高等科を設置し本尋常高等小学校と改称
- 昭和16年 国民学校令により本国民学校に改称
- 22年 本田村立本小学校と改称
- 29年 庄原市立本小学校と改称
- 57年 創立110周年記念行事を挙げる
- 平成7年 現校舎、屋内運動場が完成

本小学校



休校式 3月23日(日) 10時30分～11時
記念行事 11時30分～13時

●学校沿革(抜粋)

- 明治8年 上谷小学校を創立
- 21年 上谷尋常小学校と改称
- 41年 上谷尋常高等小学校と改称
- 昭和16年 国民学校令により上谷国民学校と改称
- 22年 本田村立上谷小学校と改称
- 29年 庄原市立上谷小学校と改称
- 31年 新校舎が完成
- 48年 1年間休校
- 49年 3名入学により開校
- 50年 創立100周年記念行事を挙げる
- 平成14年 新校舎(現校舎)が完成し移転・落成式を挙げる

上谷小学校



休校式 3月23日(日) 10時～11時
記念行事 11時～14時30分

9校の歴史・休校行事

各学校は明治以降、130余年の歴史を歩んできました。学校が始まった年、校舎が新築された年などを確認しながら、学校の歴史や先人たちの努力を振り返りましょう。



久代尋常高等小学校の授業風景

平成17年3月末で休校となった東城町の旧久代小学校は、「学びの村」として子どもから高齢者まで幅広く活用しています。

学校跡地を 公民館活動の拠点に

久代学びの村

学校は地域の拠り所。いづも地域の中心であった学校がなくなることによって、地域の人間関係も希薄になってはいけないと、休校前に小学校の跡地をどのように活用するか、検討委員会を設けて話し合いが行われました。

「学校がなくなると嘆いていても仕方ない。学校がなくなっても地域の子どもがいなくなるわけではないし、当然地域の人も残る。これまで、学校を中心に行われてきたことを、少し形を変えながらも継続して「こころ」と生涯学習の拠点である久代公民館が維持管理することになりました。

平成17年の夏に、旧久代小学校を「学びの村」として開村。子どもを対象にした「わいわい講座」など、これまで行ってきた公民館行事を、「学びの村」で開催しています。また、ゲートボールやグラウンドゴルフ、剣道クラブやそろばん教室などに利用するほか、大人を対象とした学習の場「久代尋常高等小学校」を始めました。

「久代尋常高等小学校」は、地域の人材を活かして地域の方が講師となり、国語、算術、国史、唱歌など昔の教科書を活用しながら授業を行っています。昔学



久代公民館の松井明法館長。

期待される地域の力

地域から学校がなくなったとき、校舎の利用はどうするのか、学校のよき伝統をどう引き継ぐのか、地域コミュニティをどう維持していくのか、地域の力が求められています。



奈良県へ修学旅行

んだことを基に、大人が楽しく学べるよう工夫され、奈良県への修学旅行も実施。参加者は「懐かしく、若い頃を思い出す。頭の体操にもなるし、何歳になっても新しいことを学びたい」と好評です。

生涯学習のほか、自治振興区も地域の運動会、盆踊り大会、ふるさと祭りなど、地域活動の拠点として活用しています。

松井明法館長は「跡地が生きるように、意図的に活用を仕組んでいった。誰も活用しなければ、雑草に覆われたり、窓ガラスが割れたり、学校がなくなったことに輪をかけて寂しい状況になる。活用があれば、きれいにしようという話も出てくる。跡地活用は地域でよく話し合うこと。そして、華やかなイベントより身近な課題から。まずは行動を起こすことが大切」と呼びかけます。

三河内小学校



休校式 3月30日(日) 9時~9時40分
記念行事 10時~14時30分

●学校沿革(抜粋)

明治8年 小和田神宮寺に貫誠舎として開校
10年 小和田小学校と改称
20年 三河内簡易小学校と改称
24年 三河内尋常小学校と改称
昭和22年 比和町立三河内小学校と改称
37年 現校舎が落成
50年 創立100周年記念式典を挙げる
平成17年 庄原市立三河内小学校に改称

森脇小学校



休校式 3月23日(日) 10時30分~11時
記念行事 11時30分~14時30分

●学校沿革(抜粋)

明治8年 恵蘇郡森脇村 永昌寺の郷倉を借用し幼屯舎を創設
12年 森脇小学校と改称
24年 恵蘇郡森脇尋常小学校と改称
大正8年 越原季節分教場を開設(1~3月)
昭和16年 国民学校令により森脇国民学校と改称
22年 比和町立森脇小学校と改称
23年 火災により校舎を全焼
44年 現校舎及び屋内運動場を落成
49年 越原季節分教場を休場、冬期寄宿舎を開設(12~3月)
52年 創立100周年記念式典を挙げる
平成11年 寄宿舎を閉舎
12年 越原地区にタクシー送迎を開始(冬季)
17年 庄原市立森脇小学校に改称

記念行事

「最初で最後の同窓会」を企画

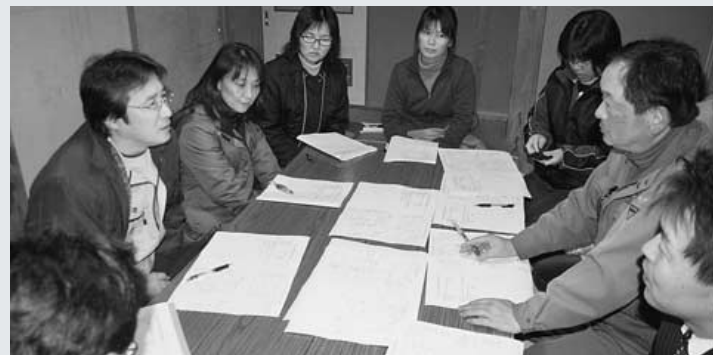
三河内小学校

各学校で休校イベントの準備が進められています。比和の三河内小学校では、保護者全員がスタッフとなり、休校式実行委員会を設立。休校式にあわせて「最初で最後の同窓会」を企画しました。

昨年の4月から準備を進め、9月に卒業生名簿が完成。10月に、約700人の卒業生に案内を通知しました。当日は、卒業生や地域住民、教職員など150人の参加者を見込んでいます。

同窓会はセレモニーとパーティの2部構成。セレモニーでは、久しぶりの学校を満喫してもらおうと、参加者の出席をとるなど授業仕立てで行い、記録映像の上映や児童発表が行われる予定。また、参加者にふるさとを思いっきり感じてほしいと、山菜など郷土料理でパーティを行います。

卒業生などからの寄付金で運営され、出席できない卒業生から、励ましの手紙やメールが寄せられています。福光宏彰会長は「出身者をはじめ三河内小学校にゆかりのある人をお帰りなさいと温かく迎えたい。今回、学校はなくなって寂しくはなるが、この同窓会を期にふるさとを訪ねていただくきっかけになれば」と話しています。



同窓会の内容を協議する実行委員

特色ある活動を 休校後も地域で継続

小島原みどりの少年団

西城町の小島原みどりの少年団は、学校を中心に行ってきた活動を休校後も継続しています。

このみどりの少年団は、自然を愛し、郷土を愛する心を育てようと昭和56年に設立。小島原小学校の全校児童がみどりの少年団の会



小島原みどりの少年団のメンバー



花壇の草取りをする子どもたち

員となり、特色ある教育活動の一環として、森林学習や美化活動などに取り組みできました。地域に根付いた活動は各方面から評価され、数々の全国表彰の実績があります。平成18年度で休校するこ

動を続けても、少子化の中で寂しい終わり方しかできないだろう」と少年団も解散の声も上がりました。しかし、話し合いを続けていく中で、「できるかぎり活動を続けていこう」と継続を決定。また、地域からも「学校がなくなり、少年団もなくなると地域で子どもたちの姿が見られなくなる。せつなくいい活動をしているのだから継続してほしい。わたしたちも応援する」と励ましの声が寄せられました。



事務局の竹島雅也さん

休校して事業規模を縮小しながらも活動を継続してきた一年を振り返り、事務局の竹島雅也さんは「なぜ少年団が美化活動などをしなければいけないのか、子どもたちの気持ちをつなぐことが課題だった。やらされているでは意味がない。

奉仕活動とは何か、社会貢献とは何か、これまで学校に任せきりだった子どもの教育が親の役割となり、わたしたちも勉強になった」と話します。また、学校活動を地域活動として継続することについては「過疎・少子化でなくなるのが当たり前の時代で、残す努力も必要だと思う。休校後の活動は、親の都合で止めるのではなく、主役である子どもを含めて



交通安全マスコットを配り安全運転を呼びかける

話し合うことが大切。子どもたちがやりたいと願えば、地域も含めて支援していく方向が望ましい」と話しています。現在の会員は10人。うち4人が6年生で、どこまで継続できるか分からない状況。今後は中学生を含めた活動を検討するほか、休校した学校で同じ活動をしている子どもたちや他のみどりの少年団と連携し活動を続けたいと願っています。

トップインタビュー 教育長に聞く

適正配置の目的や休校後の 跡地活用などについて、 辰川五朗教育長に聞きました。

「教育環境の整備で 「生きる力」を

過疎化・少子化が進む中、庄原市においても、年々児童生徒数が減少し、学校の小規模化が進んできました。平成19年度は、小学校30校中15校が全校児童数30人以下の学校になりました。こうした状況の中、子ども

もたちを取り巻く教育環境の整備が喫緊の課題として、適正配置に取り組んできました。学校は「学びの場」として、二つの側面があると思います。一つは、国語科、算数科、道徳など、教科・領域等の学習を通して、基礎的・基本的な内容の定着と豊かな

心の育成を図るという役割です。二つ目は、さまざまな個性をもつ子どもたちとの関わり合いの中で、ともに悩んだり、喜びを分かち合ったりするなど、発達段階に応じた集団生活のきまりや人間関係づくりを学ぶことができるという役割です。

他人とともに集団生活を送ることによって学ぶことはたくさんあります。まさに、学校には切磋琢磨し、社会性や協調性を育み、豊かな心をもった子どもの育成を図る機会が多く存在するといえます。



庄原市教育委員会
辰川五朗教育長

こうした「学びの場」としての教育環境を整備し、21世紀を生きる子どもたちに欠かすことのできない「生きる力」を身につけていってほしいと考えてきました。

地域の集いの場 跡地の活用を

休校後は跡地活用の課題があります。これまで学校は、子どもの学びの場であり、地域行事や集いの場でもありました。長年、地域に愛された施設でもあり、引き続き地域の大切な集いの場、活性化の拠点として、地域の方に活用していただきたいと思っています。

一方で、施設は国の補助金で建設され、現在も起債（借金）を返済中のものもあり、生涯学習や社会福祉施設など、活用方法がある程度制限されています。また、地域でも高齢化が進み、具体的な活用策がある地域は一部です。すでに休校した施設も活用方法が定まっていない所があり、跡地活用の難しさを感じています。

各学校には、それぞれ特色ある教育活動や伝統芸能の継承活動があります。学校がなくなっても、施設は残り、地域の子どもは地域

教育の充実に 取り組む

休校施設は市民の財産です。有効に活かすため、多くのアイデアを寄せていただきたいと思います。

教育委員会としては、将来、適正配置をして良かったと言われるよう、教育の充実に取り組んでいきます。休校する地域の皆さんには、これまで通学の見守り、学習支援など、さまざまな形で学校を支えていただき、ありがとうございます。

今後、学校から子どもたちの声が届かなくなり、寂しい思いをされると思いますが、これからは地域の子どもは地域へ帰ってきます。これまで通り、子どもたちもしっかりと声をかけていただき、地域の宝として見守ってください。